

第4回 六甲山系学習ゾーン検討委員会

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成19年2月27日(火) 14:00～16:00
2. 開催場所：国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所 1階会議室
3. 出席者：

【委員】

田中 眞吾 (委員長)	神戸大学名誉教授	
大藪 典子	東灘区まちづくり推進課長	
後藤 宏二	六甲砂防事務所長	
嶋津 敏幸	灘五郷酒造組合常務理事	
大黒 孝文	神戸大学発達科学部附属住吉中学校教諭	
豊田 實	神戸歴史クラブ理事長	
道谷 卓	姫路獨協大学法学部助教授	
宮田 隆夫	神戸大学理学部教授	
室谷 弘文	住吉川清流の会会長	
山本 眞敬	市立住吉小学校PTA会長	

【事務局】

六甲砂防事務所	諸留副所長、石尾課長、狩集建設専門官、金丸技術員
株式会社エイトコンサルタント	伊藤、田中、長谷川、松島、苦瓜、平井

4. 配付資料

- 議事次第(次第・委員会名簿・配席図・第3回委員会議事要旨)
- 第4回検討委員会資料 (資料①～③)
- 参考資料編 (冊子、モデル散策マップ、サブノート、学習要素の整理)

5. 議 事

1. 開会	・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ
2. 第3回委員会での意見概要について	・事務局による説明 (資料①)
3. 第4回委員会での検討内容等について	・事務局による説明 (資料②)
4. 「学習ゾーン整備計画」とりまとめ案について	・事務局による説明 (資料③)
5. アカホヤ視察 (鹿児島・宮崎) の紹介	・事務局による説明 (ビデオ上映)
6. 「学習ゾーン整備計画」への提言について	・意見交換
7. 閉会	・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ

<議 事>

●資料①～③ 事務局説明

●アカホヤ視察の紹介（ビデオ）

●視察で採種したアカホヤの実物の紹介

●意見交換

（事務局）

- ・六甲山のアカホヤの存在を知り、また、実際に触って太陽にかざすとキラキラ光ることなどを体験頂くためには、アクセス道での危険箇所の対策などハード的な整備も必要と考えている。

（後藤委員）

- ・ハード面での基盤が整えば、「アカホヤを知ろう」というサブノートやマップが生まれ、その情報源がこの冊子という形で、次々とサブノートが生まれてくるイメージで捉えている。
- ・例えば、学校の先生がサブノートを作られ、自然発生的に充実してくる展開もあるのではないかと考えている。
- ・本委員会のアウトプットとしては資料③からの骨子であり、その具体的な形が、この冊子やマップ、サブノートになると思う。

（大藪委員）

- ・冊子やマップは、短時間でよくまとめられていると思う。アカホヤについては、展示方法など若干の問題を感じる。展示施設が整った場所であれば、大事に保存して頂けると思うが、単に、区役所などに置いたままでは、どうなるのかという心配がある。
- ・また、資料には、新しいイベントなどの提案があったが、実際には難しい面もあると思う。現在、六甲砂防事務所でも様々なイベントが行なわれているので、それらの一つに加えれば、無理のないやり方で実行できるのではと思う。

－休憩（10分間）－

（田中委員長）

- ・ソフト整備についてもご意見があれば伺いたい。

（事務局）

- ・完成した冊子、マップの存在をどうやって皆様に知って頂くかが非常に難しい点であると考えている。

（宮田委員）

- ・冊子の地質部分については、田中先生と相談しても意見が一致しない部分や、また、分かりづらい部分もあり、利用者に正しく説明できるか心配している。冊子の内容はこの場だけではなく、今後も精査していくことは可能か。

（事務局）

- ・今後の精査は可能で、冊子は今後も情報を追加し、更新していくものと考えている。

（宮田委員）

- ・前回、指摘された時間軸での紹介がp. 1-4で整理されているが、この部分の表現についても相談させて頂きたい。
- ・追加ページ（p. 1-7-2）に関しては、六甲山とその周辺の地層や岩石の分布図が整理されており、実際に歩いている場所でどういう岩石が出てくるのかということが分かり易くなっている

と思う。

(事務局)

- ・モデル散策マップのねらいは、手に取って頂いて、冊子などの情報提供が出来ればという意図がある。そういう意味で、大きさ、使い易さが重要であると思う。

(豊田委員)

- ・この冊子を歴史の研究会で現場の先生に読んでもらったのだが、「まさ土」は「まさど」「まさつち」のどちらの読みが正しいのか、また、「背山」は「せやま」「はいざん」と読むのかなど、正しいルビがはっきりしないものがあり懸念している。そのため、利用する学校の先生に事前に指導をしておくことが必要である。

(後藤委員)

- ・マップは、どういう場所へ置くのか。

(事務局)

- ・東灘区役所へ依頼することを考えている。その他、関係機関なども考えている。

(田中委員長)

- ・阪急、阪神などの駅での配布は考えていないのか。

(事務局)

- ・3種類セットということではなく、場合によっては、1種類のみでも置かせて頂けないか考えている。

(道谷委員)

- ・このようなチラシや冊子を置いているところで、最も有効な場所は神戸市総合インフォメーションである。逆に区役所は積まれたままで残っていることが多い。
- ・駅は広告宣伝との関係で、無料で置かせて頂けるか確認が必要である。

(田中委員長)

- ・インフォメーションは、無料で置くことが可能なのか。

(道谷委員)

- ・区役所を通じれば、神戸市に関連するものは無料で置かせて頂くことが可能である。

(後藤委員)

- ・一般の方への情報提供と同時に、教育、学校場で利用して頂ければ、内容も充実してくるのではないと思う。学校場での利用促進の方法があればご意見を頂きたい。

(山本委員)

- ・東灘区全体でのPTA会議があり、例えば、私にこの冊子を渡して頂ければ、各学校のPTAに紹介することができる。PTAから学校へ繋げて頂けると思う。
- ・この冊子は、非常によくできており教養のためにも十分活用することができると思う。

(大黒委員)

- ・私の方では、すでに冊子を360部欲しいと考えている。小学校の教師に見せると、すぐにでも使いたいというニーズがある。5月に神戸市の中学校の理科部会があり、その場で紹介する方法を取れば大きな宣伝になると思う。
- ・国語や社会の教師に見せても、使いたいという人が多くいた。まずは、こういうものがあるという紹介をすれば、ぜひ使いたいという教師は多くいると思う。
- ・もう少し欲を言えば、住吉川流域だけでなく、神戸・阪神間でも広く使っていければと考えており、もう少し広く宣伝活動が必要と思う。

(豊田委員)

- ・神戸市では、各区の中で公聴会があり、こうした機会でもPRすれば、神戸市全体へ広まっていくと思う。
- ・冊子の内容に関して、「だんじり祭り」をもう少し高く評価して、紹介して頂ければと思う。文化を語る上では重要な事柄である。

(山本委員)

- ・昔と今の「街の様子」を対比させて、海岸線や水車などをジオラマ模型で紹介すれば、子どもたちの興味を引くのに有効ではと思う。

(事務局)

- ・今のお話は、冊子のp. 2-9で若干触れているが、事務所では、現在、この地域の古地図を集めており、今後、充実できればと思う。

(田中委員長)

- ・鹿児島大学には、縄文海岸線を紹介する立体模型がある。神戸でも昔と現在を比較する立体模型ができれば面白いものになると思う。

(後藤委員)

- ・例えば、p. 1-18には、土石流で転がってきた巨石の断面図があるが、立体模型で紹介できれば、住吉川も暴れ川であったということを学習できるきっかけになると思う。

(宮田委員)

- ・p. 1-12に関して、アカホヤはトピックスとして非常に取り扱いやすい内容であるが、防災には結びつけにくい内容である。重要なのは、断面スケッチにあるようにアカホヤが断層の上で変形していること、アカホヤ火山灰が堆積した後も断層が動いていることで、これを紹介すれば、防災へ繋がると思う。そのため、下から4行目の「7,300年前」を「7,300年前以降」という表現に修正する必要がある。

(大黒委員)

- ・私は、西滝ヶ谷へ5回行った経験があるが、これを実際に使う立場からフィールドワークをする上で、五助えん堤より上流にて携帯電話が使えない点を心配している。
- ・子どもたちを連れて行く場合は、連絡手段などの安全対策が必要である。例えば、携帯電話の基地局設置など、将来的に、六甲砂防事務所の働きかけによって、通信手段の確保ができれば、安心して子どもたちを連れていくことができると期待している。

(事務局)

- ・国土交通省として、出前講座を行なう際には、事務所の方で衛星携帯を所有しており、活用することも可能である。

(大黒委員)

- ・今の総合学習の形態は、昔のように、生徒が列を成して、それを教師が引率するのではなく、小グループごとに課題を見つけさせ、グループ別に携帯電話を持たせて、活動することが多いため、現状の教育環境に即した安全対策の確保が必要である。

(後藤委員)

- ・この場で即答が難しいため、事務所として、そのような意見があったということで受け止めて頂きたい。

(田中委員長)

- ・時間も迫ってきたので、最後にご意見があれば頂きたい。

(豊田委員)

- ・このモデルマップの一つでも使って、親と子が一緒に活動できる場があれば、その他のマップや冊子が生きてくると思う。

(道谷委員)

- ・今後、如何に利用して頂くかが重要である。サブノートは、夏休みの自由研究の課題に使ってもよいのではないかと思う。
- ・夏休みに親子参加型のイベントを企画して配布することができればと考えている。

(島津委員)

- ・冊子の内容の修正の最終期限はあるのか。

(事務局)

- ・期限の目安は今年度末と考えているが、ご指摘があればその都度お願いしたいと考えている。

(室谷委員)

- ・冊子やマップを実際に活用することは非常に良いが、生徒数に対して引率する先生の数など、実際の現場での十分な配慮が必要になると思う。

(田中委員長)

- ・今後、冊子について、気が付いた点があれば、事務局へ連絡をして頂ければと思う。

<閉会挨拶（後藤事務所長）>

- ・本日は2時間の議論、大変ありがとうございました。貴重な時間を割いて頂き、4回の委員会を重ねてきました。また、委員会の場以外での内容の確認、ご指導など、個別にお時間を割いて頂き、本日提示させて頂いた内容にたどり着いたところです。
- ・本委員会は、今回の4回で終了となりますが、本日頂きましたご意見につきましては、事務局にて加筆、修正を加え、必要に応じて、個別にご相談・ご報告という形を取らせて頂ければと思います。
- ・また、本日の討議でありました、活用の方、方法につきましては、PTAからの周知、学校の先生方の研修における周知、公聴会での周知、また、実際に使う場合に、生徒数の問題など、実務運用の面からのご指摘を頂きました。これらにつきましては、委員の皆様は、教育や地域に密接に関わっておられますので、これを機に、今後ともご指導を頂ければと考えています。
- ・限られた時間の中で、貴重なご意見を頂きまして、今後は、これらの活用に結びつけて行きたいと思っております。
- ・このような形で取りまとめることができましたことを感謝いたしまして、閉会の挨拶とさせて頂きます。大変ありがとうございました。

以上